

銅原料供給はなお低位安定か

海外ギリシヤ問題や中国の政策次第に

橋本金属
・アルミ
橋本健一郎氏リポート①

一月前半は、十二月の米A D P雇用統計で雇用者数が予想を上回ったこと、米F O M C議事録で四月までは利上げを行わないとの記載があった事などのプラス材料もあったが、昨年未発表の中国H S B C・P M I指数が四九・六と五〇を割った事、ギリシヤ懸念が強まる中、E C B D T F F 総裁が追加緩和に言及するも総選挙後、場合によっては一〇離脱をドイツが容認した事、原油が四五ドルを割った事、さらにG S (ゴールドマン・サックス) が原油相場の四〇ドル割れを予想した事などのマイナス材料を受けD O W N。

一月十五日時点でL M E銅相場は五、六二七ドル(セツル)と月初価格より六八二ドルD O W Nの前半締めとなった。

一月後半は原油がO P E Cの需給見通しを受けて一時五〇ドル台まで反発したことや、O P E Cが十五日、二〇一五年の原油需要が年後半にかけて持ち直すとの見通しを発表した事、十二月の中国への海外直接投資は前年比一〇・三%増の二二三・二億ドルだった事、

一月の米消費者信頼感指数速報値は九八・二に上昇、予想は九四・一。一四年ぶりの高水準などの好材料もあったが、中国の二〇一四年の国内総生産(G D P)は、物価変動の影響を除いた実質で前年比七・四%増となり、一三年(七・七%増)を下回った事。L M E銅在庫が前営業日比一萬〇、二〇〇トン増と最近の三年間ではみられない急増ぶりだ。カッパー相場の変動が窺われたこと。注目のF O M C声明で、利上げまで「忍耐強く」(be patient)なるとのフォワードガイダンス(時間軸の表現を据え置いたが、事実上のゼロ金利を「相当な期間」維持するとの一節は削除し、ゼロ金利解除をにらんだ政策判断を事実上、前進させたとの判断、などのマイナス材料を受けてD O W N。L M E銅相場(セツル)は二月三日現在、後半スタート価格から一八四ドルD O W Nの五、五三三・五〇ドル。銅建値七〇万円での二月スタートとなった。

■前月の経済指標

◆月間のドル/円レート (T T S)
一一〇・七七―一一八・四四(円)

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比二・五%減の七六万六、九四五台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動

車販売台数(軽除く)は前年比一八・九%減の二三万七、一七〇台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比一四・七%減の七万六、四一六戸であった。

◆貿易関連指標

輸出

財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が八・九%減の三万三、〇六〇t、スクラップが三二・三%増の二万九、六七三t。

輸入

輸入は電気銅が前年比三・七・四%減の三、一九五t、スクラップが三二・七%減の五、五二六t。

■前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年比一・八%増の六万六、六七〇t。

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、銅電線出荷量は前年比二・九%減の六万tであった。

■概況

【自動車生産】

十二月の四輪車生産台数は七六万六、九四五台で、前年同月の七八万六、七二〇台に比べて一萬九、七七五台・二・五%の減少となり、六カ月連続で前年同月を下回った。

十二月の車種別生産台数と前年同月比は次の通り。

乗用車は六四万九、一三三台で一万八、七九六台(二・八%)の減少となり、六カ月連続のマイナス。このうち普通車は三六万一、四〇七台で、七〇二台(〇・五%)の減少、小型四輪車は二二万九、六七八台で一万八、四九〇台(二・五%)の減少、軽四輪車は一五万八、一五二台で、三九六台(〇・九%)の増加。

トラックは一〇万七、一七〇台で、五一四台(一・四%)の減少となり、二カ月連続のマイナス。このうち普通車は四万九、二二七台で、三〇七七台(六・七%)の増加、小型四輪車は二万三、五九二台で、一〇四六台(四・二%)の減少。軽四輪車は三万四、三五一台で、三、五四五台(九・四%)の減少。

バスは一〇、五三八台で五三三台(五・三%)の増加となり、一カ月ぶりにプラス。このうち大型は一、〇四六台で二三三台(二八・七%)の増加、小型は九、四九二台で三〇二台(三・三%)の増加。(六面へ続く)

(四画より続く)

十二月の国内需要は四三万二、九一八台で、前年同月比二・一%の増加であった。うち乗用車三六万〇、三四六台で、前年同月比〇・三%の増加、トラック七万〇、七四三台で同二・〇%の増加、バス八二九台で同二・九%の増加。
輸出は前年同月比〇・五%の増加実績。

【自動車販売】

一月の国内自動車販売台数(軽は除く)は三万七、一七〇台で前年比一八・九%減。五カ月連続マイナス。うち乗用車は二・四%減、貨物四・四%増、バス六・七%。

【住宅着工数】

平成二十六年十二月の住宅着工戸数は七万六、四一六戸で、消費税率引き上げ前の駆け込み需要の影響が大きかった前年同月比では一四・七%減となった。一方、そのような影響のない前々年同月と比べると〇・六%増となっている。また、季節調整済年率換算値では八八・三万戸(前月比一・一%増)となった。

(持家)

前年同月比では一カ月連続の減少(前年同月比二五・五%減、季節調整値の前月比では一・七%増)。

(貸家)

前年同月比では六カ月連続の減少(前年同月比八・九%減、季節調整値の前月比では三・四%増)。

(分譲住宅)

前年同月比では二カ月連続の減少(前年同月比一〇・五%減、季節調整値の前月比では一・七%減)。

(分譲マンション)

前年同月比では三月ぶり減少(前年同月比一〇・五%減)。
(分譲一戸建住宅)

前年同月比では八カ月連続の減少(前年同月比二〇・五%減)。

【伸銅品生産】

伸銅品生産は前年比一・八%増の六万六、六七〇。内需は五万四、八七八で〇・七%増。輸出一萬一、七九二で六・九%増と五カ月連続プラス。銅条は二万二、八三〇で二〇・七%増と二カ月連続プラス。黄銅棒は一萬四、七二六で四・六%減と五カ月連続マイナス。堅調な銅条に対して、黄銅条、銅管、黄銅棒が前年対比でマイナス。十一月からの基調に変化なし。

【銅電線出荷量】

前年比二・九%減の六万七。うち国内二・七%減。輸出が九・一%減。通信六二%減、電力一四・七%増。電気機械三七%減。自動車四・七%減。建設電販二・九%減。その他内需一〇・四%減。

【輸出】

電気銅輸出が前年比八・九%減の三万三、〇六〇。銅スチープは三二・二%増の二万九、六七二。

【輸入】

電気銅が三七・四%減の三、一九五。スチープは三二・七%減の五、五二六。

【見通し】

自動車は生産が前月に続き減少の二・五%減。また一月の国内販売台数も前年比一八・九%と減少幅も拡大。販売の減少が五カ月連続。続きメーカーもそれに伴い生産を調整している。輸出は〇・五%増と微増。販売台数の下げ止まるかどうか、今後の動向に注目。

・新設住宅着工数は前年比一四・七%減。季節調整済年率換算値で八八・三万戸(前月比一・一%増)。消費税前の駆け込み需要も終了。九カ月連続減少。ただ季節調整済換算では四カ月連続プラスであり、今後の動向に期待する。

・伸銅品は前月はマイナスだったが、再び増加の前年比一・八%増と好調。板・条は自動車、半導体向けを中心に堅調さが見られたが、黄銅棒は住宅関連の低調さを受けて調整が続いた。伸銅品生産は板条の増加に支えられている面もあり、今後の板条の動向に注目。

・輸出は一八・二〇〇円レンジの大幅な円安トレンドや、自動車、住宅生産の減少による需要減や先行き不透明感、年末の整理売りも加わり、スチープが大幅増加したとの見解。

・輸入は内需の不透明感や大幅な円安に伴う割高感から減少したとの見解。

【スチープ供給予想】

年末の整理売りから一次問屋には在庫はある程度あるが、電気銅建値が年初から一三万円暴落した事から不良在庫に達しているため実質は在庫薄状態。

メーカーも建値急落に伴い、相場が落ち着くのを見極めたとの判断や、イスラム国テロ問題のほか、旧正月で政治、経済共に停滞気味であることから買い気薄との予測から、供給は低位安定との見解。

【価格・為替予想】

今日は、原油価格やギリシャ新政権との債務交渉及び、旧正月前の中国政策に左右される。

WTI原油は米投資会社ゴールドマンサックスが四〇ドル割れを予測した事から、一時四五ドルを割り込む水準まで下落するも、その後OPECが二〇一五年の原油需要が年後半にかけて持ち直すとの見通しを発表するなど、口先介入をしたことから、四五ドル近辺で下落は一旦ストップ。

米国もこれ以上の下落は総合的にNYダウの下落要因になるとの見解も出始めており、両者が居心地のいい五〇〜五五ドル近辺で推移するのではないかと。

ギリシャとの債務交渉は左派政権がかなりの支持を集めており、混乱が予想される。中国との港湾の民営化に関しても問題が生じており全体として長引きます。

旧正月前の中国の政策だが、特に大きなマイナスがない一方で貸付枠の拡大など、細々とした景気対策が出てきており今後の動向に期待したい。

それらを踏まえた二月の銅価格は、WTI原油が特段変化なく五〇〜五五ドル近辺で推移、旧正月前に中国政府が新たな景気対策に言及し、ギリシャ債務問題も長期化しながらも悪材料が出なかった場合、一月後半高値の五、八〇〇ドルを予測し、いずれの場合も五、六〇〇ドル。下値はいずれの条件も達成できなかった場合も一段安値の五、三〇〇ドル。

為替はスイス中銀の上限撤廃(ユーロ一・二〇スイスフランに設定していたスイスフランの上限レートを撤廃し、無制限のフラン売り・ユーロ買いの為替介入をやめると決めたこと)を受けて一・一五円で上昇するも、ECBの追加緩和を受けて現在は一・一七円近辺。今後、ギリシャ債務問題でじれるようなら上値は一・一五円台。下値はECBの追加緩和前の一・一八円台(TTM)。

銅建値に関しては六五〇〜七三〇円程度と予測している。